

国際室 たより

編集：日本弁護士連合会
国際室

No. 30

(主な内容)

- ・IBA2013ボストン大会に参加して
- ・LAWASIA年次大会に参加して
- ・日弁連とパリ弁護士会共同セミナー@パリに参加して
- ・留学生の本音

IBA2013ボストン大会に参加して

弁護士 森 理俊

2013年10月6日から米国ボストン市にて開催されたIBAの年次総会に、日弁連の若手支援制度から支援をいただいて参加しました。6日間に約6000人もの方が参加した大きな大会でした。

IBAの年次総会では、140以上もの多様なセッションが開催された他、多くのパーティー等、公式・非公式の社交の場がありました。セッションのテーマは、民事法、刑事法、家族法、企業法務、事務所経営、法曹倫理、人身売買等、実に幅広いです。私個人は、「ビッグデータ」といった最先端のテーマのほか、「グローバルな弁護士のための戦略的意思決定」「効果的な依頼者との関係構築」といった日本ではあまり見かけないテーマのセッションに出席しました。

日本がGDP世界第3位の経済大国であるにもかかわらず、IBAでの日本の弁護士のプレゼンスは相対的に低いように感じました。英語でのコミュニケーションに苦手意識のある弁護士が多いであろうことは、私自身の問題でもあることから、容易に推測できるのですが、勇気をもって参加すると、世界中の弁護士と知り合って、新しい知的な刺激が得られるので、お勧めです。

2014年は、東京開催です。ホスト国日本から、多様な分野で多くの弁護士が参加して、世界の弁護士と交流を深めることが、日本の司法の質の向上と弁護士の研鑽に寄与するでしょう。私も、できる限り継続して参加して、世界中に友人を作ろうと考えています！



山岸憲司会長を含む日弁連代表団（会場前）

LAWASIA年次大会に参加して

弁護士 上平 加奈子

2013年10月28日～30日に、シンガポールで開催された第26回LAWASIA年次大会に、日弁連の若手支援制度（登録10年以下の会員について一部参加費用を援助する制度）による派遣会員として参加してきました。

この年次大会では、午前中の基調報告や本会議のほかに、午後からは分科会として合計10個の個別の会議が開かれました。私は日本からのパネリストがいる分科会を中心に参加しましたので、その一部をご報告します。

まず、「裁判外紛争解決」の分科会では、アジア地域における裁判外の紛争解決方法について、シンガポール・韓国・日本からの各パネリストにより各国のADR制度について紹介が行われたほか、国際的な紛争解決の方法として、訴訟以外の解決方法を検討する議論が行われました。日本のパネリストからは、労働、医療に関する各ADR制度のほか、原発事故による損害賠償請求に関する原子力損害賠償紛争解決センターによるADR制度についても紹介がなされました。日本における多様なADR制度については、司会を務めるシンガポールの弁護士からも大きな興味が寄せられ、質問が出されていました。また質疑応答では、ADRの制度が未整備であるネパール、フィリピン、ベトナムの各弁護士からも積極的な意見や質問が出され、法整備というハード面の充実もさることながら、話し合いにより解決を図るというADRの本質（ソフト面）に関しても難しい問題があると総括されました。

このほかにも「都市における環境問題」や「国際的な家族及び相続問題」などの分科会に出席しましたが、他国における法律問題には、日本と共通するところがあることが認識できました。また、海外の弁護士とやり取りする中で、他国の弁護士の業務内容や、最先端の法律問題について知識を深めることができました。

今回、日弁連の若手支援制度を利用することで、これまで全く縁がなかった国際会議に出席することができ、新しい世界が広がりました。各委員会や弁護士会経由で募集されますので、若手の皆さんはぜひ積極的に活用することをお勧めします。



本年次大会において新会長に就任した鈴木五十三会員

日弁連とパリ弁護士会共同セミナー@パリに参加して

副会長 松田 幸子

2013年9月26日、パリのメゾン・デウ・バロー（Maison du Barreau）において、日弁連（国際交流委員会）とパリ弁護士会の共同セミナーがありました。国際投資がテーマであり、スピーカーには、企業・政府・プレス関係者も含まれました。日本側スピーカーの角山一俊（労働法制）、牧山嘉道（知財法）両弁護士の用意周到な準備と要領のよいプレゼンテーションに対し、フランス側スピーカーはその場で自由に発言し、日仏の国民性の違いを見る思いでした。フランスでは概ね日本のアベノミクス成功のカギは労働者の賃金上昇と内需拡大だと捉えているようです。日本企業が終身雇用の正社員を減ら

し賃金抑制によって国際競争力を維持したことで逆に労働者の企業に対する忠誠心や技術が失われているという鋭い指摘もありました。冒頭パリ弁護士会会長のChristiane Féral-Schuhlさんは日本とフランスの絆をより強くしたいと挨拶され、私も、日弁連がフランスをはじめヨーロッパの制度に学んでいることや東日本大震災・原発事故後に多くの支援を受けたことへの感謝を述べ、記念品を交換しました。セミナー後のカクテルパーティーには、日仏の企業関係者、法曹、学生、日本大使館関係者に加え、インドやブラジルなどからも参加があり、パリの魅力は万国の人々を引きつけるようです。



開会挨拶をする松田幸子副会長

留学生の本音 ～留学帰国者報告会を開催～

日弁連には公益的活動をしている会員を海外のロースクールに推薦して派遣する留学制度があります。去る2013年11月26日、本制度を利用して留学した会員による報告会が弁護士会館で開催されました。前半は、ニューヨーク大学留学の篠島正幸会員、イリノイ大学留学の竹内千春会員、カリフォルニア大学留学の中村剛会員、昨年度から派遣先となった英エセックス大学留学の平尾潔会員と北川靖之会員が、各校の研究環境や生活環境の魅力を、写真を豊富に使ったスライドを用い

て報告しました。後半の「留学にまつわる“本音”トーク『聞きづらいけど知りたい疑問』に答えます!」と題するパネルディスカッションでは、「英語の準備は?」「事務所との関係は?」「留学費用は?」といった質問にパネラーが回答。「実務経験に基づいた明確な問題意識がないと時間が漠然と過ぎてしまう。」「英語は継続的な努力が必要。」「留学で人生観が変わった。」といった声が聞かれました。

(国際室嘱託 山神 麻子)

